

# トップの部屋

## 「道民に力」同志と見た夢

道産食材を生かした健康食品の開発に取り組み北海道バイオインダストリー(札幌)。

社長の壁に1枚の写真がかかっている。「夢を忘れないために飾っているんだ」。佐渡宏樹社長(67)はそう言って写真を見つめた。写真中央には北海道国際航空(エア・ドゥ、現在のAIRDO)の創業者で、2000年に亡くなった浜田輝男さんがほほ笑んでいた。

### エア・ドゥ設立

健康食品会社と航空会社。一見、畑違いに見える2社には共通点がある。いずれも佐渡社長や浜田さんから道内中小企業経営者たちが描いた夢から生まれた会社であることだ。

1989年、自動車用品販売会社を経営していた佐渡社長は、養鶏業を営む浜田さんから約20人と北海道中小企業家同友会内に異業種交流会「一水会」を発足させた。毎月第1水曜、道内経済の活性化に

は何か必要か、議論した。当時の羽田一新千歳間の正規航空運賃は大手各社とも往復5万円ほど。「道内経済は人の往来を増やさない」と立ちゆかなくなる。航空会社をつくり、運賃を半額にできないか。

「無謀」と言われた挑戦の始まりだった。当時、航空業界に新規参入することは難しいとされていた。だが、規制緩和という追い風が吹く。96年、浜田さんから突然、電話がかかってきた。「新聞、読んだか。運輸省(当時)が航空業界で新規参入を認めるらしい」

### 健康食品を開発

浜田さんは航空会社設立の発起人となり、佐渡社長はサポートチームの代表として出資者集めに奔走、道内外の中小企業の仲間や道民に支援を呼び掛けた。98年、第1便が就航した。エア・ドゥはその後、破綻、再建の道を歩んだが、「航空会社設立という道のない夢を実現した。北海道のため、道内の中小企業が立ち上がった意義は大きかった点にある。」

エア・ドゥ設立と並行して、二つ目の夢も進行させた。「北海道が生き残るには、得意分野の農業を生かし、食の高付加価値化が欠かせない」。97年、タマネギの機能性成分研究の国内第一人者で、一水会にアドバイザーとして参加していた北海道東海大(現東海大)の西村弘行教授(現東海大)の研究を基に、健康食品会社を設立、社長に就任した。大学発ベンチャーの草分けとなる北海道バイオインダストリーだ。

### 道内で健康野草の王様と言われるギョウジャニンニクのサプリメントや、道産タマネギの健康成分を凝縮させたサプリメントなどの健康食品を次々と発売した。だが、サプリメント業界は競争が激しく、商品の入れ替わりもめまぐるしい。

悩んだ。健康食品として売れるには何かが必要か。「健康への効果が科学的に裏付けられているだけではだめだ。普段の食事に取り入れてもらえらる商品にしないと」。健康とおいしさの両方を追求した。12年、タマネギが持つ記憶障害の改善作用成分を増加させる特許技術を使って「北海道タマネギドレッシング」を発売した。

これが当たった。同年、日本野菜ソムリエ協会の調味料選手権サラダ部門で最優秀賞を獲得。全国の百貨店から注文が相次ぎ、今や1カ月に1万2千本を売り上げる。「こまめに来るのに10年以上かかった。コンディショニング(体調を整える)調味料分野で国内トップを目指す」と意気込む。そして今、三つ目の夢が始動している。農業を通じて幅広い世代が健康に生活できるまちづくりを目指すNPO法

### 企業データ

北海道バイオインダストリー	札幌市豊平区平岸7の14の3の43
本創業種	1997年 道産食材を活用した健康食品の開発販売
資本金	3060万円
売上高	1億円(14年3月期)
従業員数	12人

道内経済の活性化を掲げ、仲間たちと描いたエア・ドゥ(A)、バイオ(B)、ケアドゥ(C)という三つの夢が、形になりつつある。エア・ドゥの2号機就航直後、志半ばで亡くなった浜田さんの言葉が脳裏に浮かぶ。「夢は人生の翼である。だから、夢のない人生は永遠に羽ばたけない」。亡き仲間の思いとともに、飛び続ける。(経済部 堂本晴美)

佐渡宏樹(さど・ひろき) 46年、旭川生まれ。北星学園大文学部社会福祉学科卒業後、横浜ゴム(東京)に入社。75年に定年退職した父と、カー用品販売のハマ用品販売(札幌、現在はハマに社名変更)を設立。北海道中小企業家同友会の異業種交流会の構想を発展させ、97年に北海道バイオインダストリーを設立した。

### 質問!

- 好きな言葉 風を読み、風をつかみ、風を起こせ
- 趣味 スキー、テニス、ゴルフ
- 好きな食べ物 かりんとう
- 最近うれしかったこと 開拓民だった祖父が入植した地である上川管内東川町に、孫と一緒に行ったこと
- 一番大切にしているもの 人とのつながり



ともに夢を語り、追いかけた浜田輝男さんと一緒に写った写真が飾られた社長室。「地域の人たちが生きがいをもって働き、健康に生活できる地域社会づくりが夢」と話す佐渡宏樹社長(守屋裕之撮影)

北海道バイオインダストリー 営業部課長

たしま たけし 田島 健さん(35)

### わたしも一言!

## 相手否定せず味方に

最初は取っつきにくい印象でしたが、実際に接してみると、イメージが180度変わりました。深く物事を考えているけれど、押し付けたりせず、社員の意見をよく聞いてくれます。社員の成長を促そうとしてくれているんだと思います。

社長からは人との付き合い方も学びました。社長は全方位型で、誰とでも仲良くなり、味方にする。人の悪口は絶対に言いません。昔の自分は嫌いなものを切り捨てる側面がありま

したが、「否定したらそれまで」ということを教えられた気がします。小さい会社ということもあり、社内は和気あいあいとした雰囲気です。社長のカラーが出ているんでしょうね。年に1回、社内のみんなでボウリングに行きます。社長はいつも200点ほどの点数を出して、1番になります。「手を抜いてくださいよ」と言っても、抜いてくれません。マイペースであり、とことんまでやる性分なのでしょう。

最初は取っつきにくい印象でしたが、実際に接してみると、イメージが180度変わりました。深く物事を考えているけれど、押し付けたりせず、社員の意見をよく聞いてくれます。社員の成長を促そうとしてくれているんだと思います。社長からは人との付き合い方も学びました。社長は全方位型で、誰とでも仲良くなり、味方にする。人の悪口は絶対に言いません。昔の自分は嫌いなものを切り捨てる側面がありま

今回は8月20日の「ヒットの理由(わけ)」で、北見ハッカ通商(北見)のハッカ油の予定です。

